

指導資料  
鹿児島県総合教育センター

複式教育 第53号

- 小学校対象 -

平成13年7月発行

複式学級における同単元同内容指導

- 国語科の学習を通して -

複式学級における国語科の学習指導は、指導計画作成上の難しさもあって、学年別指導が多く行われている。しかし、同単元同内容指導は、一般的に異学年による学び合いの機会が増大するなど、複式学級のよさを生かすことができる。また、新学習指導要領の国語科では、目標や内容が2学年まとめて示されたことにより、この指導が更に取り入れやすくなる。

そこで、複式学級の国語科の学習指導において、同単元同内容指導の取組を更に活発にするために、この指導のよさや学習の進め方について述べる。

1 国語科における同単元同内容指導のよさ

(1) 同単元同内容指導のよさ

同単元同内容指導において、上・下学年に対して、同程度の学習を展開していくときには、同単元(題材)、同一の教材を扱うことになる。例えば、単元「お話を楽しもう」の指導において、第1学年と第2学年は、共通して「力太郎」(光村図書2年)という教材を学ぶことになる。

このような同単元同内容指導には、次

のようなよさが挙げられる。

異学年による子どもの学び合いを通して集団思考の深まりが期待できる。

異学年が一つの教材を共通して学ぶことで、わたりやずらしなどが無くなり、学習展開に余裕が生じ個別指導の徹底を図ることができる。

学年別指導に比べ、教材・教具などの準備が軽減し、教材研究の充実が期待できる。

特に、の異学年による子ども同士のかかわりの中で、教え合いや学び合いを通して、共に学ぶ力を育成することは、「生きる力」をはぐくむ上でも大切なことである。

(2) 国語科におけるよさ

ア 伝え合う力を高める国語科の学習指導を目指すことができる

新学習指導要領の国語科の目標に新たに、「伝え合う力を高める」ことが位置付けられた。小規模・少人数という複式学級の実態の中で、「伝え合う力を高める」ためには、同じ話題で異学年がお互いに話し合ったり、調べてまとめたこと

などを発表し合ったりする言語活動が可能となる同単元同内容指導が効果的である。

イ 2学年まとめて目標，内容が示された趣旨を生かすことができる

今回の改訂で，目標や内容が2学年ずつまとめて示された。例えば，中学年であれば，2学年のまとまりの中で第3・4学年が共通の内容・目標を学習していくことになる。異学年が同一教材を扱って学習を進める同単元同内容指導は，2学年まとめて目標や内容が示された趣旨を生かす意味からも，これまで以上に効果的な指導であると思われる。ただ，一人一人の子どもが確実に学習目標を達成するようにするためには，綿密な教材研究を行い，子どもの反応を予想し，つまづきに応じた手だてをとることが必要になる。

## 2 同単元同内容指導の進め方

### (1) 基本的な考え方

ア 複式の学習指導が単式化されることによって，一斉学習の形態が多くなるが，学年差，特に個人差に応じた個別指導の充実を目指すものであるという考え方に立つ。

イ 上学年は下学年に学び方を教えたり，両学年の多様な考えが広がったりするような学び合う活動を設定して，異学年が共に学ぶよさを生かした学習過程の工夫を行う。

ウ 教材が上学年のものである場合，下学年にとって，学習していない漢字や学習用語などが出てくることが予想されるので，下学年には，特別に指導する時間を設定するなどして，配慮するようにする。

### (2) 指導計画作成に当たって

ア 指導計画の作成に当たっては，学年別指導の年間指導計画を基本にしながらい，同単元同内容指導を位置付ける折衷案（学年別の指導計画の一部にA年度，B年度の単元を位置付けたもの）とする。

イ 指導内容の系統性の観点から，「話すこと・聞くこと」の教材，「読むこと」の文学的文章教材は，同単元同内容指導とし，説明的文章教材など，それら以外の教材は，学年別教材とすることが一般的である。

ウ 同一年度に，一方の学年の教材が偏らないようにするなどして，取り上げた単元をA・B両年度にほぼ均等に振り分ける。

エ 位置付けた単元が異学年で同じ時数になるように調整する。時数の調整は，「話すこと・聞くこと」や「読むこと」などの各領域内で行う。

オ 基礎・基本の確実な定着のために，指導内容の精選・重点化を図り，共通の指導目標と個人差に応じた目標を設定する

カ この指導は，下学年の子どもにとっての学習負担，転入・転出児童にとっての未習内容の問題，欠学年への対応などの課題も抱えているので，学年別指導との折衷案を作成するなどして，これらの課題に対応していくことも望まれる。

以上のことを踏まえて作成した折衷案が次の例である。

複式学級第3・4学年折衷案(例)

月	単元名及び教材名		領域	時数
	3年	4年		
9	言葉のリズムを 楽しもう ・なくぞ	声に出して読もう ・タ立	読むこと	2
	A年度「わたしのニュース」(3年) B年度「ニュースの時間」です(4年)		話すこと・聞くこと	4
	言葉っておもしろいな ・いろいろな意味をもつことは ・しょうたいじょう作り	言葉っておもしろいな ・文を組み立てる ・グループ新聞作り	言語 書くこと	6 5
	六 みんなで考えよう ・虫のゆりかご ・しぜんのふしぎ <同じ読み方をする漢字>	六 みんなで考えよう ・手と心で読む ・伝え合う心 <漢字の組み立て> <ローマ字>	総合 言語 読むこと	18 2 2
11	A年度 場面をくらべて一つの花(4年) B年度 おもしろいと思ったところは ・三年とうげ(3年)		言語 読むこと	13
	<へんとつくり>	<いろいろな符号>	言語	2

注 網掛け部分が、同単元同内容指導である。

### 3 具体的な展開

ここでは、単元「『ニュースの時間』です」について、具体的な展開構想を述べる。

3年生と4年生は、共通のめあてに向かって、同じように学習活動を展開していくことになるが、学び方を学ばせたり、ガイドを育成したりするために、ガイド学習(学習の案内役の子どもが司会・進行をしながら、子ども同士で話し合いを進めていく小集団学習)を積極的に取り入れることが大切である。

また、3年生への漢字指導も個別に時間を設定するようにする。

ア 単元名「ニュースの時間」です(第3・4学年)

イ 単元の目標

話す速さや間の取り方を工夫して、話したいことと中心がみんなに分かるように筋道を立てて話すことができるようにする。

事実と感想に着目しながら、話の中心を正確に聞き取り、自分の感想をまとめることができるようにする。

ウ 単元の指導計画(全4時間)

過程	主な学習活動	教師の働きかけ
つかむ	CDを聞いて、二人組のインタビュー形式の話し方について知る。  学習のめあてをつかむ	・ガイド学習の場を位置付け、下学年がガイド学習の進め方に親しむようにする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     最近の出来事の中から話題を選んで、二人組でみんなに伝えよう。                 </div> 学習の計画を立てる。	・「話し方」「聞き方」について、個人のめあてを設定するようにする。 ・3年生には学習していない漢字等の指導を行う。
調べる	「読んだ本の中から」「心に残ったテレビ番組から」「友達のよいところ再発見」などの話題について話し合い、「お話メモ」を作る。	・ガイド学習を通して、子ども同士で「お話メモ」が書き進められるように支援する。
	インタビュー形式のよさを生かした話し方を練習し、発表する。  二人組でのニュースの発表の内容や仕方について、自己評価・相互評価をする。 (本時)	・一人でのスピーチとの違いを踏まえる。 ・筋道を立てて分かりやすく話していたか、話の中心を押さえながら聞いていたか、などの観点から評価するようにする。
いかす	学級全体で、ニュースの紹介を行う。	・発表会形式で、できるだけ子ども同士で進められるように支援する。

の数字は時数を表す。

- (ア) 本時の指導に当たって  
 上学年と下学年のペアをつくり、お互いに学び合いながら発表の内容を深めるようにする。  
 学年差、個人差に応じた指導の徹底を図るために、特に、問題をつかむ段階、たかめる段階で、個別指導の時間を確保し、つまずきに応じた手だてをとるようにする。  
 間接指導時のガイド学習に生きて働く学び方を育成するために、ガイド話型や学習進行表などを活用して子ども同士で学習が進められるようにする。  
 複式学級のよさを生かすために、問題解決的な四段階(「課題把握」「課題追究」「解決・定着」「適用・発展」)の学習過程を取り入れる。
- (イ) 目標  
 インタビュー形式の話し方のよさを生かして、話題の中心を筋道を立てて分かりやすく話すことができるようになる。
- (ウ) 本時の実際(3/4)

過程	段階	主な学習活動	時間	教師の働き掛け
つかむ・みとめ	課題把握	1 前時の学習を想起し、学習のめあてを話し合う。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">インタビュー形式のよさを生かした話し方の練習をしよう。</div>	10	<p>机間指導を通して、インタビュー形式の話し方のよさが十分に理解できていない子どもには、個別に指導をしながら、学習問題を焦点化するようにする。</p> <p>4年生のガイドは、「ガイド話型」を活用してできるだけ、子ども同士で学習問題が設定できるように支援する。          3年生には、ガイドの進め方も学ぶように助言する。</p>
		2 学習の進め方を確かめる。 ペアで練習する。 全体の前で練習する。		
たかめる	課題追究	3 インタビュー形式の話し方の練習をする。 (1) 「お話メモ」を二人組で確認する。 (2) 二人組のインタビュー形式の発表を見て、理想的な発表について、話し合う。 (3) 二人組で練習をする。	20	<p>上学年が話題についての事実を説明し、下学年はそれに対する感想や意見を言う「お話メモ」になっているかどうかをお互いに確かめるようにする。</p> <p>特に、下学年について、意見や感想がもっているか個別に確認し指導する。</p>
		4 全体の前で発表し、学習を振り返る。 (1) 全体の前で発表する。 (2) 二人組で自己評価・相互評価をする。 (3) 評価結果を参考にして再度、練習する。		10
ふかめる	適用・発展	5 本時のまとめをする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">二人組の役割をはっきりさせて、筋道を立てて分かりやすく話すことが大切だ。</div> 6 次時の学習について話し合う。	5	<p>「ガイド話型」を参考に、本時のまとめができるように、ガイドを支援する。</p> <p>学習計画表を参考に、次時の学習のめあてを確認するようにする。</p>

( 印は、個別指導の手だて )

- 4 複式学級の学習指導の充実を目指して  
 学年別指導においても、異学年間の単元の関連性を明らかにし、同時導入、同時終末を取り入れた学習展開の工夫を通して、異学年による共通の学び合いという複式学

級のよさを生かそうとしてきた。同単元同内容指導は更にそのよさを生かすことになる。今後、同単元同内容指導に一層取り組んでいられることを期待したい。

[参考文献] 全国へき地教育連盟編『へき地・複式・小規模学校Q&A』平成12年

(教育経営研修室)